報道発表

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

令和８年１１月５日

「書道」のユネスコ無形文化遺産代表一覧表登録に関する評価機関による勧告

我が国よりユネスコ無形文化遺産代表一覧表への登録に向けて提案した「書道」について、この度、無形文化遺産保護条約政府間委員会の評価機関より「記載」の勧告があり、ユネスコ無形文化遺産公式サイト（https://ich.unesco.org/en/）内において公表されましたので、関芳弘大臣の談話と併せて、お知らせいたします。

本勧告を受け、第２１回政府間委員会（令和８年１１月３０日～１２月５日、厦門（中国））において最終決定がなされます。

１．評価機関による勧告（別添参照）

「書道」については、提案が認められ、「記載」（登録）することが適当との勧告がなされた。

（参考１）評価機関による勧告の３区分

- ①「記載（Inscribe）」：代表一覧表に登録するもの。
- ②「情報照会（Refer）」：提案国に追加情報を求めるもの。
- ③「不記載（Not to inscribe）」：登録基準を満たさないもの。

（参考２）評価機関

評価機関は、各地域から選出された専門家６名とＮＧＯ６団体で構成。代表一覧表への登録等について事前審査を行い、政府間委員会に勧告を行う。

２．今後の予定

第２１回政府間委員会（令和８年１１月３０日～１２月５日、厦門（中国））において、１２月１日～１２月３日の間にユネスコ無形文化遺産代表一覧表への登録に関する最終決定がなされる予定。

なお、同委員会での決議は、評価機関の勧告と同じ「記載」、「情報照会」、「不記載」の３区分である。

＜担当＞　文化庁文化資源政策・記念物課文化遺産国際協力室
室長　則本（内線 4784）
室長補佐　荻原（内線 5737）
無形文化遺産係　坂口・松葉・依藤（内線 2868）
電話：03-6734-2868（直通）

※文化庁仮訳

評価機関による勧告内容（ポイント）

委員会は、

１．日本が「書道」を人類の無形文化遺産の代表一覧表（以下「代表一覧表」という。）に提案したことを確認する。

２．提案書に含まれている情報をもとに、５つの基準を満たしていると考える。

３．代表一覧表に「書道」を記載することを決定する。

４．日本が、今後の提案書作成に向けた好例となる質の高い提案書を提出したことを称賛する。

（詳細は別添原文参照）

DRAFT DECISION 21.COM 7.b.8

The Committee

1. Takes note that Japan has nominated **Shodo, calligraphy in Japan** (No. 02263) for inscription on the Representative List of the Intangible Cultural Heritage of Humanity:

   Shodo is the act of handwriting words in Kanji (Chinese characters), Kana (Japanese syllabic writing), or both, using traditional brushstrokes on paper. The calligraphy technique is also used to create designs for engraving seals. Shodo is used for events such as Kakizome (a ceremony in which people write their New Year's resolutions, goals and prayers on paper) as well as for writing letters, signing guestbooks, or creating name certificates for newborns. The bearers include practitioners who have mastered the traditional technique, instructors who teach Shodo, their students, and the people who produce the tools (brushes, ink, ink stones and paper).

2. Considers that, from the information included in the file, the nomination satisfies the following criteria for inscription on the Representative List of the Intangible Cultural Heritage of Humanity:

   R.1: In addition to being a means of expression, Shodo promotes traditional culture, particularly because classical literature is expressed through calligraphy. It also promotes respect for nature through the use of natural materials to craft the traditional Shodo tools. The practice is transmitted mostly through hands-on engagement, including through school clubs and lessons incorporated in school curricula. Calligraphers also transmit traditional techniques to younger generations in schools or Shodo classes. Some experts hold exhibitions of their calligraphy works, provide practical courses to teach the related knowledge and skills, and coordinate study sessions to promote and transmit Shodo to the general public.

   R.2: The inscription of Shodo would enhance the visibility of intangible cultural heritage by highlighting the cultural and artistic value of handwritten calligraphy as a living tradition. Shodo fosters appreciation of cultural identity, creativity and intergenerational transmission. Its role in preserving historical documents enables the transmission of

knowledge and cultural values to future generations, strengthening awareness of the importance of safeguarding intangible cultural heritage. By increasing public interest and understanding of Shodo, the inscription would also encourage greater appreciation of other forms of living heritage, promote cultural dialogue, and support the long-term sustainability of traditional knowledge and practices.

R.3: Shodo is safeguarded through a combination of formal education, community-led initiatives, and government support, with communities playing a central role in planning and implementing safeguarding measures. As part of the national school curriculum, children learn Shodo techniques from an early age, ensuring intergenerational transmission. Community organizations voluntarily organize workshops, exhibitions, lectures, public demonstrations and outreach activities for children, youth and adults, while training teachers, instructors and future practitioners. Craft producers also promote traditional tool-making through educational programmes. The Japanese government supports these community-led efforts by recognizing Shodo as a Registered Intangible Cultural Property, providing financial assistance, and promoting public awareness. The Japan Shodo Culture Association also monitors the element's viability and potential impacts of inscription, ensuring adaptive and inclusive safeguarding without gender-based restrictions.

R.4: The nomination of Shodo was initiated through the strong commitment of its bearers and practitioners, who sought to ensure its transmission to future generations. Community organizations established the Japan Council for Promoting Shodo's Inscription on the UNESCO List and mobilized broad participation from supporting groups. Practitioners actively contributed to government research by completing questionnaires, compiling findings, and sharing recommendations. Expert calligraphers subsequently formed the Japan Shodo Culture Association to coordinate safeguarding efforts. During the nomination process, practitioners, experts and representative organizations actively provided information, videos and documentation. They also participated in preparing the nomination file, and gave their free, prior and informed consent and formal support for both the nomination and its accompanying documentation.

R.5: The element was included in the Inventory of the Intangible Cultural Heritage in Japan in December 2021. The inventory is maintained by the Agency for Cultural Affairs of the Government of Japan and is updated annually with the participation of bearer communities and practitioners.

3. Decides to inscribe **Shodo, calligraphy in Japan** on the Representative List of the Intangible Cultural Heritage of Humanity;

4. Commends the State Party on the quality of the nomination file submitted, which serves as an example of good practice for the preparation of future nominations.

「書道」のユネスコ無形文化遺産代表一覧表記載に関する評価機関の勧告に対する関芳弘文部科学大臣談話

「書道」が、ユネスコ無形文化遺産保護条約政府間委員会の評価機関による事前審査において、無形文化遺産の代表一覧表への「記載」がふさわしいとの勧告を受けたことは、大変喜ばしいことです。

「書道」は、筆や墨を用いて伝統的な筆遣いや技法により文字を表現する我が国の貴重な文化です。生成 AI 等デジタル技術が進展する時代だからこそ、感性や表現力が培われる書道はますます重要になっています。

最終的な結論は、ユネスコ無形文化遺産保護条約第２１回政府間委員会（本年１１月３０日～１２月５日開催、於：厦門（中国））において正式決定される予定であり、評価機関の勧告どおりに代表一覧表に記載されるよう、期待しています。

（別紙１）

「書道」提案概要

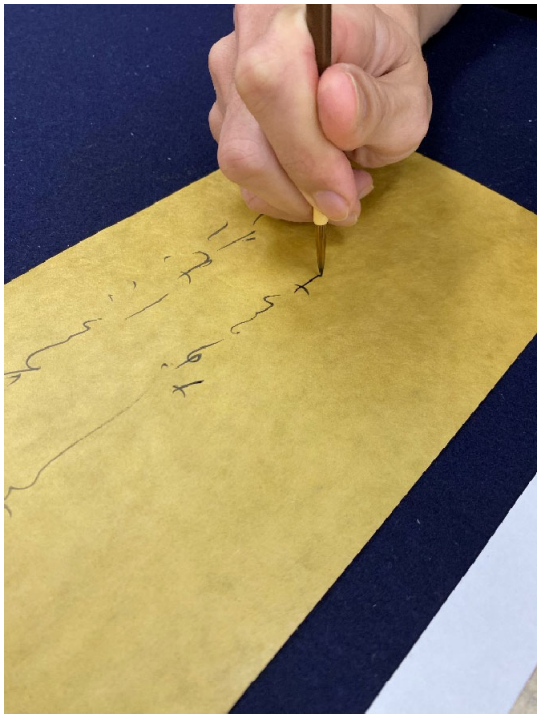
１．名称

書道

２．概要

「書道」とは、筆、墨、硯、紙等の用具用材を用いて、漢字、仮名、漢字仮名交じりの書、または篆刻として、伝統的な筆遣いや技法の下に、手書きする文字表現の行為。

「書道」は、手紙、命名書、冠婚葬祭に係る金封や芳名帳への署名、また、正月に行われる書き初めといった年中行事等、日本人の日常生活上の様々な場面で用いられ、社会的慣習となっている。



（仮名）



（漢字仮名交じり）

ユネスコ無形文化遺産について

（別紙2）
令和8年10月1日現在

条約の概要

2003年(平成15年) 無形文化遺産保護条約 採択〔2004(H16)年 日本締結（世界で3番目）、2006(H18)年 発効〕

【目　的】 ■ 無形文化遺産の保護
■ 無形文化遺産の重要性及び相互評価の重要性に関する意識の向上 等

【内　容】 ■ 「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」（代表一覧表）の作成
■ 「緊急に保護する必要のある無形文化遺産の一覧表」の作成
■ 無形文化遺産基金による国際援助 等

締約国数：185

登録までの流れ

■締約国からユネスコに申請（毎年3月）
〔各年、約60件の審査件数の制限〕
＊無形文化遺産の登録のない国等の審査を優先
＊我が国の案件は実質2年に1回の審査となっている
↓
■評価機関による審査
↓
■政府間委員会において決定（翌年11月頃）
① 記載（inscribe）
② 情報照会（refer）⇒ 追加情報の要求
③ 不記載（not to inscribe）

登録基準 ＜無形文化遺産保護条約運用指示書（抜粋）＞

■ 申請国は、申請書において、代表一覧表への記載申請案件が、次のすべての条件を満たしていることを証明するよう求められる。

1. 申請案件が条約第2条に定義された「**無形文化遺産**」を構成すること。
   （a）口承による伝統及び表現　（b）芸能　（c）社会的慣習、儀式及び祭礼行事
   （d）自然及び万物に関する知識及び慣習　（e）伝統工芸技術
2. 申請案件の記載が、無形文化遺産の認知、重要性に対する認識を確保し、対話を誘発し、よって世界的に文化の多様性を反映し且つ人類の創造性を証明することに**貢献**するものであること。
3. 申請案件を保護し促進することができる**保護措置**が図られていること。
4. 申請案件が、関係する社会、集団および場合により個人の可能な限り**幅広い参加**および彼らの自由な、事前の説明を受けた上での**同意**を伴って提案されたものであること。
5. 条約第11条および第12条に則り、申請案件が提案締約国の領域内にある無形文化遺産の目録に含まれていること。

我が国の無形文化遺産登録（代表一覧表記載）状況等

日本は現在23件(※)
（世界全体では716件）
(※) 国指定文化財等としては128件

重要無形文化財　選定保存技術
重要無形民俗文化財　文化審議会決定
登録無形文化財

2008(H20)	能楽（のうがく）　人形浄瑠璃文楽（にんぎょうじょうるりぶんらく）　歌舞伎（かぶき）
2009(H21)	雅楽（ががく）　小千谷縮・越後上布【新潟】　奥能登のあえのこと（おくのとのあえのこと）【石川】　早池峰神楽（はやちねかぐら）【岩手】 秋保の田植踊（あきうのたうえおどり）【宮城】　大日堂舞楽（だいにちどうぶがく）【秋田】　題目立（だいもくたて）【奈良】　アイヌ古式舞踊（あいぬこしきぶよう）【北海道】
2010(H22)	組踊（くみおどり）　結城紬（ゆうきつむぎ）【茨城・栃木】
2011(H23)	壬生の花田植（みぶのはなたうえ）【広島】　佐陀神能（さだしんのう）【島根】【情報照会】本美濃紙、秩父祭の屋台行事と神楽、高山祭の屋台行事、男鹿のナマハゲ（ほんみのし　ちちぶまつりのやたいぎょうじとかぐら　たかやままつりのやたいぎょうじ　おがのなまはげ）
2012(H24)	那智の田楽（なちのでんがく）【和歌山】
2013(H25)	和食；日本人の伝統的な食文化
2014(H26)	和紙（わし）：日本の手漉和紙技術（にほんのてすきわしぎじゅつ） ※2009年に無形文化遺産に登録された石州半紙【島根】に本美濃紙【岐阜】、細川紙【埼玉】を追加して登録。 ※2025年に越前鳥の子紙【福井】を追加し、計4件の技術として拡張登録。
2016(H28)	山・鉾・屋台行事（やまほこやたいぎょうじ） ※2009年に無形文化遺産に登録された京都祇園祭の山鉾行事【京都】、日立風流物【茨城】に秩父祭の屋台行事と神楽【埼玉】、高山祭の屋台行事【岐阜】など31件を追加し、計33件の行事として登録。 ※2025年に常陸大津の御船祭【茨城】、村上祭の屋台行事【新潟】、放生津八幡宮祭の曳山・築山行事【富山】、大津祭の曳山行事【滋賀】を追加し、計37件の行事として拡張登録。 ※吉田祭のお練り行事【愛媛】を追加する拡張提案中（2027年12月拡張登録審議予定）。
2018(H30)	来訪神（らいほうしん）：仮面・仮装の神々（かめんかそうのかみがみ） ※2009年に無形文化遺産に登録された甑島のトシドン【鹿児島】に、男鹿のナマハゲ【秋田】、能登のアマメハギ【石川】、宮古島のパーントゥ【沖縄】、遊佐の小正月行事（アマハゲ）【山形】、米川の水かぶり【宮城】、見島のカセドリ【佐賀】、吉浜のスネカ【岩手】、薩摩硫黄島のメンドン【鹿児島】、悪石島のボゼ【鹿児島】を追加して計10件の行事として登録。
2020(R2)	伝統建築工匠の技（でんとうけんちくこうしょうのわざ）：木造建造物を受け継ぐための伝統技術（もくぞうけんぞうぶつをうけつぐためのでんとうぎじゅつ） ※2009年に提案したものの未審査となっていた「建造物修理・木工」に「檜皮葺・柿葺」「建造物装飾」等を追加し、計17件の技術として登録。 ※2025年に手織中継表製作を追加し、計18件の技術として拡張登録。 ※「屋根瓦葺（琉球瓦葺）」（保存団体名：琉球瓦葺技術保存会）、「（一社）日本茅葺き文化協会」（茅葺）及び「NPO法人 丹波漆」（日本産漆生産・精製）を追加する拡張提案中（2027年12月拡張登録審議予定）。
2022(R4)	風流踊（ふりゅうおどり） ※2009年に無形文化遺産に登録されたチャッキラコ【神奈川】に、綾子踊【香川】など40件を追加し、計41件の伝統芸能として登録。 ※白鳥の拝殿踊【岐阜】を追加する拡張提案中（2027年12月拡張登録審議予定）。
2024(R6)	伝統的酒造り（でんとうてきさけづくり）
提案中	書道（しょどう）　※「書道」は2026年12月に登録審議予定
提案中	神楽（かぐら）　※「神楽」は2028年12月頃に登録審議予定 温泉文化　※「温泉文化」は2030年12月頃に登録審議予定